

<b>上田仮説サークルニュース</b>		<b>9月例会</b>	2020.09号
編集責任	遠藤 裕		発行2020.10.24
〒383-0041	中野市岩船426-3	サンダーン中野B-G	TEL0269-23-2847 携帯090-1406-9115
メール endo-h@cronos.ocn.ne.jp		勤務先 中野西高校	TEL0269-22-7611

9月26日(土) Zoomによるオンライン9月例会



午後3:00~7:00

参加者数9名

資料総ページ13ペ

<参加者> 増田伸夫さん, 柳沢克央さん, 高見沢一男さん, 山田翔輝さん,  
北村知子さん, 渡辺規夫さん, 大塚浩文さん, 田中浩寿さん, 遠藤裕

**はじめに** 9月例会の参加者は9名。

9月例会も新型コロナウイルス感染防止のためZoomを利用したオンライン開催(6回目)でした。ホストは前回に引き続き遠藤が担当。画面共有の操作の仕方, 再入室してくる人への許可の見落としなど, 不慣れなところがありご迷惑をおかけしましたが, 無事に開催することができました。

今回も参加者の顔を見ながら話すことができ, 大変充実したサークルになりました。

発表レポートは, 山田さん1本, 増田さん1本, 柳沢さん2本, 田中さん1本, 渡辺さん1本の合計6本でした。今回は映像発表や, 画面上での資料が多くありました。このニュースは入手できた資料と当日のメモに拠っていますので, 勘違いしている部分もあると思いますがご了承下さい。

山田さんの紹介ソフト<VESTA>, 柳沢さんの紹介のシミュレーション版<もしも原子が見えたなら>は, 原子や分子そして結晶などをイメージするのに大変役立ちそうです。また, 柳沢さんは授業で工夫していることをいろいろ発表してくれています。増田さんはシュンペータの著書の要約を発表してくれましたが大分難解な本ようです。続きもあるということで楽しみです。渡辺さんは自治体会長の仕事が大変なようですが, 活動を改革したいという意欲が資料発表を通して伝わってきました。知子さんは, ものづくりの発表をしたかったようですが, 公民館で再開できたときまでのお預けとなりました。

中央公民館での例会開催を願いつつ・・・。

**<本の出版>**

<b>渡辺規夫さん出版の本の紹介</b>		 <b>新刊</b>
『板倉聖宣さん・上廻昭さんに聞く 仮説実験授業の誕生 仮説実験授業成立史資料集1』	上田仮説出版	
『渡辺規夫講演 科学史研究と仮説実験授業』	上田仮説出版	
板倉さんは何のために科学史を研究したのか		
『日本科学史学会シンポジウム 科学史研究と教育』	上田仮説出版	

『寛容の思想の成立と発展 第10集 牧衷』 上田仮説出版  
『日本科学史学会シンポジウム 板倉聖宣の科学史研究と仮説実験授業』  
上田仮説出版

柳沢克央さん出版の本の紹介  
『竹内三郎 仮説実験授業の将来展望』 信州・ふたつやなぎ書房  
－「長谷川帽」と「偏見を抑圧しない組織」－

## 1. 発表資料

### ① サークルニュース 8月例会 遠藤 裕 (8ペ)

<Zoomによる8月例会>

#### 1. 発表資料

- ① サークルニュース 7月例会 遠藤 裕 (9ペ)
- ② 中一夫さん「サークルでのレポート検討の方法」 柳沢克央さん (8ペ)
- ③ 紹介 中一夫さん「講演記録の作り方」 柳沢克央さん (32ペ)
- ④ 授業書《花と実》用の写真の紹介 北村知子さん
- ⑤ 「川崎たのしい授業体験講座 (Zoom)」参加報告 田中浩寿さん (5ペ)
- ⑥ 「8.12語り場資料発表会」での発表 柳沢克央さん (4ペ)
- ⑦ 図説 板倉聖宣科学論 柳沢克央さん (1ペ)
- ⑧ 紹介：ナイチンゲールとデータ・サイエンス論 柳沢克央さん (1ペ)
- ⑨ 文部科学省への「惜別の辞」 柳沢克央さん (1ペ)
- ⑩ 2020読書メモ8月号 柳沢克央さん (2ペ)  
－歴史的大変革「コロナ・ショック」の時代をどう解釈するか－  
細谷功著『地頭力を鍛える』(東洋経済新報社・2019年)

### ② おもしろいソフト〈VESTA〉の紹介 山田翔輝さん

結晶のシミュレーションソフトの紹介。

学生の時から使っているソフトで、いろいろな使い方ができる。

生活科学の《分子と結晶》の授業で、生徒に見せたとのこと。いびつな形でも中は結晶で、外形より中味が整っていることが大切、と生徒に説明。岩塩の劈開など、画面の角度で見やすくなる。ダイヤモンド、ベンゼン、タンパク質の結晶も見るができる。

インターネットで「VESTAの使い方」が調べられる。またデータベースからいろいろな物質の入力データが得られる。

### ③ シュンペーター『帝国主義と社会階級』の要約 増田伸夫さん

増田さんの予想をしながら読む本の要約。

「戦争はなぜ続くのか」ということについて、高橋和夫氏が『帝国主義と社会階級』という本を紹介していたのが読むきっかけになったとのこと。

メモによると、シュンペーター（1883～1950）は経済学者で、イノベーション（創造的破壊）を提唱。第一次世界大戦中に書かれ、＜社会階級論＞（1910年）に遡る。マルクスに影響されていた。資本主義の生成の理論、衰退の理論。レーニンの帝国主義論、＜戦争を強行することの利益＞。

<補足> 出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikimedia) 』

創造的破壊（そうぞうてきはかい）とはヨーゼフ・シュンペーターの著書『資本主義・社会主義・民主主義』の第7章で提唱された経済学用語の一つである[1]。経済発展というのは新たな効率的な方法が生み出されれば、それと同時に古い非効率的な方法は駆逐されていくという、その一連の新陳代謝を指す。

創造的破壊は資本主義における経済発展そのものであり、これが起こる背景は基本的には外部環境の変化ではなく、企業内部のイノベーションであるとした。そして持続的な経済発展のためには絶えず新たなイノベーションで創造的破壊を行うことが重要であるとシュンペーターは説いた。

### ④ 紹介 シミュレーション版〈もしも原子が見えたなら〉 柳沢克央さん

《もし原》のシミュレーション版のオンラインでの紹介。

分子が飛び交う映像が迫力があり印象的です。

<話題>

試案の紹介。科学者の肖像写真を見てクイズ形式で名前を当てる。

体験入学で、＜ゲーム感覚でマッキーノ＞をおこなったとのこと。内容は元素記号のドリル22個（Cu, Agを含め）。エクセルを使ってゲーム感覚で行う。

### ⑤ 井出弥門先生のこと 田中浩寿さん （4ペ）

7月にしょ行われた川崎のZoomによる体験講座の参加報告。

井出弥門先生のこと（7月に紹介した、板倉聖宣『数量的な見方考え方』の中の「遠山さんと私 — 水道方式と仮説実験授業」の続き）

7月のサークルで、

小倉金之助と共訳者の井出弥門（彌門）という人は、長野県の佐久出身で、上田高校の数学の先生だったようです（上田高校同窓会報 昭和59年5月号）。板倉先生が科学史に志した『カジョリ初等数学史』が、後の上田高校の先生の翻訳とは驚きです。

と書いたのですが、後日、上田情報ライブラリに『伝記 井出彌門』（井出丑男著・私家本・平成16年4月発行）という本があることがエコー検索で分かり、借りてきました。

それによると、井出弥門先生は、佐久の出身ではなく、小県郡武石村余里の出身（旧姓・竹内）で、神科村古里の井出滝治（女性）と婿養子縁組で結婚したそうです。

井出弥門先生の略年譜（『伝記・井出彌門』PP325～334参照）を作ってみました。

いろいろな学校や学歴を経験していることに感心します。

数学だけ拔群にできて、体育など不得手で、小学校の先生は苦手だったようですが、まさに「一芸に秀でよ」で、得意な数学を武器にこれだけ長く研究・実践に打ち込まれたことに敬意を表します。和算についてもかなり詳しく研究されたようです。

『カジョリ初等数学史』共訳以外に単著も何冊も出していらっしゃるのですが、単著が古本で出ているのは、アマゾンで旺文社の『物語 数学史』（1300円くらい）しかなくて、まだ入手していません。国立国会図書館デジタルライブラリで、著作が読めるようです。

<略年譜> 1892(明25)～1983(昭58) 91歳まで (省略)

それと、小倉金之助について紹介している映像（山形放送制作・平成2年）がネットから見つかったので、データ量が少ないナローバンドなので、画像は粗いですが、それなりに小倉金之助の生涯が分かりますので、見てみましょう（別データ参照）。

【再掲】上田高校同窓会報 昭和59年5月10日 より、井出弥門先生は名物先生だった！

（オンライン上で山形県郷土学習ビデオ教材<小倉金之助>を観ました。）

## ⑥ 「自治体活動を考えるための基礎データ」—自治体も世界の一部— 渡辺規夫さん

自治会活動のスリム化のために考える基礎データの紹介。

「自治会長の仕事は忙しいです。」とっている渡辺さんは、活動のスリム化を図るため、基礎データを作ったとのこと。データとして挙げられていたのは、

・平均寿命 ・犯罪件数 ・交通事故 ・学校でのいじめ

などです。昔に比べてこれらはかなり改善されています。長期統計をもとに考えれば、自治体活動は従来の仕事を減らし、地域の文化的活動に力を入れていくべきだとの説明がありました。活動のムダな部分を削り、新しい活動を創造していくことが求められていると考えられます。また自治体活動のIT化を推進していくことが必要とのこと。どこの自治体でも高齢の方が活動されているので、なかなか進まないのが現状のようです。働き方改革を通して、若い世代がもっと自治体の活動に関心を持つことも必要だと感じます。

本の紹介 スティーブン・ピンカー著『21世紀の啓蒙』思想社

## ⑦ 信毎の記事からの紹介 柳沢克央さん (1 ペ)

「教育1人1台パソコン時代」(2020.9.6日)の記事の紹介。

職場の委員会に資料として紹介したもの。

全国の学校に高速の通信環境と小中学生1人につき1台、パソコンなどの端末を整備する「GIGAスクール構想」が進む。その背景と課題について東北大学院の堀田龍也教授に聞いた。

次のような見出しがあります。…小中学生に情報活用学ぶ新たな文具，基本情報は自ら収集，授業より本質を考える場に，自治体間格差浮き彫りに。

この記事に対して柳沢さんは、「ツッコミを入れることにより思考訓練をしてみよう」ということで，記事を①～⑬の項目に分け，ツッコミのコメントが書かれています。

**あとがき** 10月に入り，大分冷え込んできています。風邪などをひかれませんよう体調管理にご留意下さい。



職場では10月に入り，クラスマッチが2日間，COL（中西名物のクーリー  
ン・オリエンテーリング）が1日ありました。6月に授業が再開されてから，8月末の文化祭  
以来の行事です。特に1年生にとってはそれぞれが初めての行事でしたが，元気よく参加して  
いました。高校生のエネルギーを感じる行事となりました。

授業は平常に戻っていますが，あるクラスで発熱者が出てPCR検査を受けたという情報が  
入り，職員は少しヒヤリとしました。陰性で特に問題はありませんでした。までしばらくこ  
のような状況が続きそうです。新型コロナの感染を気にしなくても良い日が来るのが待ち遠し  
いです。(エンドウ)

★ 今後の予定 ★  
11月28日(土)  
12月19日(土)  
1月23日(土)